

1 実態把握 ※収集した情報を自立活動の6区分に即して整理する。

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
できないこと・難しいこと	●口を常にかけていることが多く、風邪をひきやすい。	●初めてのことや慣れない人が苦手で、不安感が強い。	●苦手な活動があるときは集団にスムーズに参加できない。 ●行動の調整が難しく時間に遅れたり人を待たせたりすることが多い。	●ダンスなどの早い動きを模倣することが苦手である。 ●縄跳び等、身体を協調させる運動が苦手である。	●同じ姿勢を保持することが難しい。 ●手先を使った細かい作業が苦手である。	●相手の立場や状況など場面に応じた言葉遣いが難しい。 ●言語が不明瞭で聞き取りにくいことがある。
できること・支援があればできること		○人前で話すとき不安になるが見守る中でできることが増えた。 ◎情緒は安定していることが多い。	◎慣れた人とは相手の立場を考えて話題をふることができる。 ○次の活動への見通しをもつと意識して素早い行動をすることができる。		○姿勢を意識させる言葉かけで、背中を伸ばそうとする。	◎相手に伝わるまで何度も話そうとすることができる。

●できないこと・難しいこと ◎できること ○支援があればできること

2 課題の抽出 ※抽出された課題は、四角で囲んだりアンダーラインを引いたりする。

3 指導目標

指導目標 (年間目標)	立った姿勢を保持しながら、教師の動きに合わせて手足を協調させて身体を動かすことができる。
----------------	--

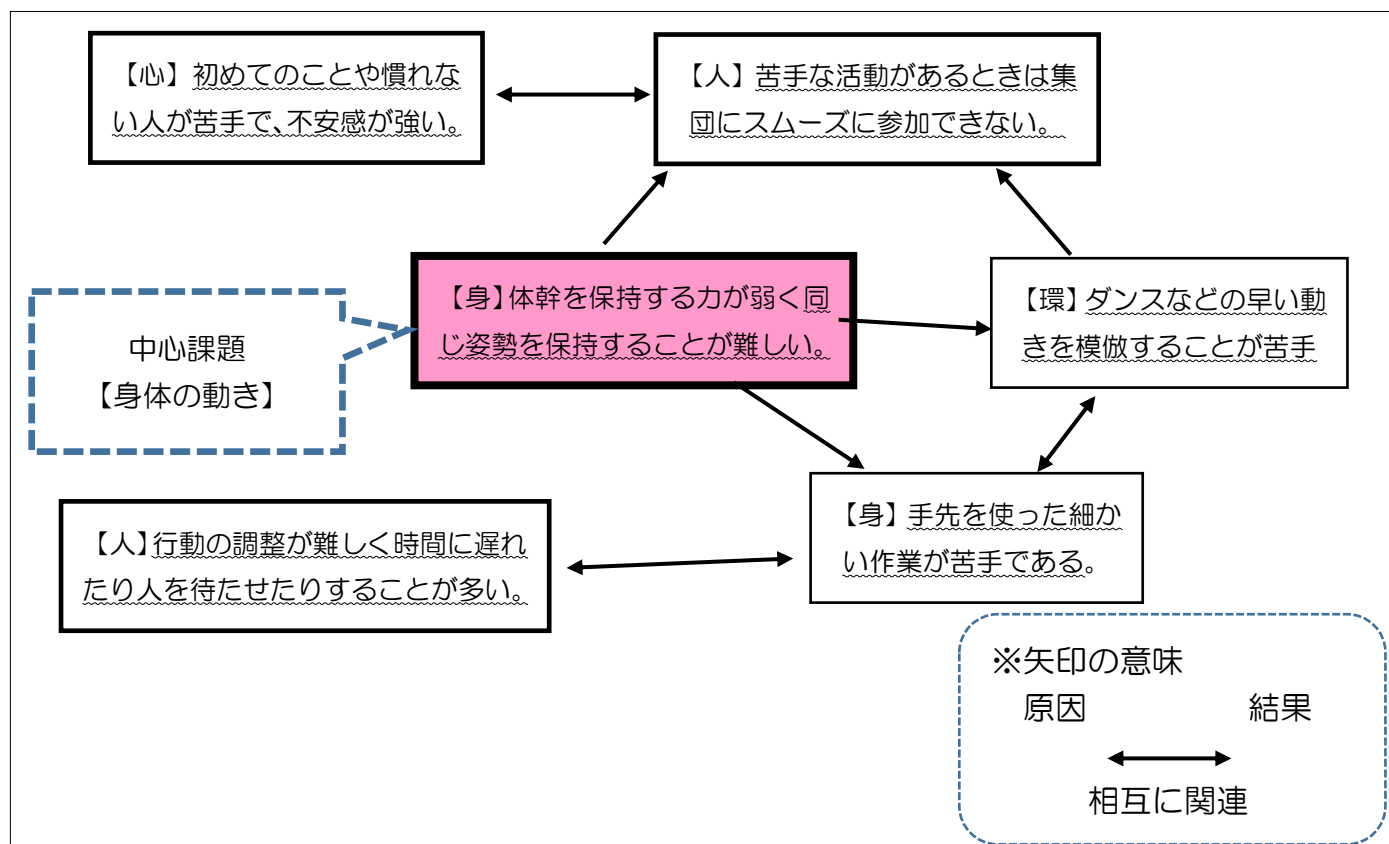
4 必要な項目の選定と具体的な指導内容

項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
			(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	

指導内容	教師と一緒に姿勢を保持したり動かしたりする。	両手、両足を使った粗大運動をする。	時間内に提示された課題(細かい手作業)を正確に遂行する	
指導場面	・自立活動の時間	・自立活動の時間	・自立活動の時間	

★1 「課題」間の関連の整理と「中心課題」の明確化

※「2 課題の抽出」の次に行う



★2 指導仮説

○体幹を保持する力が高まることで、指先を使った細かい作業をスムーズに遂行する力がついたり、手足を協調させて運動したりする力が高まると考える。これらの力が身に付くことで自信が付き、初めてのことにに対する不安の軽減や意欲的な集団参加などへの良い影響が期待される。

【指導の方向性】

- ・腰の出し入れや良い姿勢を保持する指導を通して、自分自身の身体の使い方へ意識を高める。
- ・自立活動の時間に、苦手な細かい作業に取り組む機会を設定し「できた」という自信を多く実感させる。
- ・学校生活全体において、良い姿勢を保持したり、良い動きが見られたりした場合には称賛する。
- ・不安でも頑張って取り組んだ場面についても称賛する。